

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「夢 (gift) を明日へ
つなげよう」

高田ロータリー今年の
スローガン

「ロータリーは親睦と
奉仕の融合」



世界へのプレゼントになろう

2015～2016年度

国際ロータリー会長 K.R.ラビンドラン
2560地区ガバナー 山本 和則
高田ロータリー会長 水上 喜芳
幹事 大島 誠

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
田中 正人 小熊 貞良 栗田 修行
笠谷 吉春 小林 豊茂 霜村 浩

第40回例会 ■ 4月22日(金)

No.38

会長挨拶 ● 水上 喜芳



皆さんこんにちは。

先週 14 日夜 9 時過ぎ発生した九州熊本地震、発生当初あまり大した事にならないように思えていたが 16 日午前 1 時過ぎに発生した余震だと思っていた本震により事態は一変しました。

絶え間なく発生する震度 4, 5, 6 の余震で建物崩壊や崖崩れが至る所で発生し大変な大災害になりました。

亡くなられた方、被災された方には大変気の毒で、お悔やみと、お見舞いを申し上げます。

先週 16 日土曜日三条北ロータリークラブの 30 周年記念式典が三条 VIP で開催され大島幹事と出席して来ました。

その帰り、今回の『熊本地震』の災害見舞について話をしていましたところ、早速当 2560 地区と協働ネットワークセンターから義捐金の話がありました。

本日の理事会で、高田ロータリーとして例会で募金箱を回し被災義援金を集め地区を通し送金することを決定致しました。

後ほど募金箱を回しますのでよろしくお願い致します。

また、明日は長岡で次年度地区研修協議会となっています、お忙しいところ恐縮ですが、よろしくお願い致します。

本日の卓話は『雪だるま財団』の伊藤親臣様よりお話を頂きます。

出席報告

出席率 100%

お客様

和田慎太郎様 (高田 RAC OB)

メイクアップ

加藤卓也君 (4/27 新井 RC にて卓話「電力小売全面自由化から一ヶ月が経過して」)

委員会報告

出席・ニコニコ BOX 委員会

高坂光一君——明日、明後日、高田世界館で山椒太夫公演を行います。大勢の皆様楽しんでいただけますように。

SAA——食事数ピッタリ 2 回目です。

中田次期幹事

4 月 23 日 地区協議会が開催されます。高田クラブからは 14 名の出席です。

5 月 13 日 クラブフォーラムで研修内容の発表を行います。

会員インフォメーション

佐藤信明君

大巖寺 第 17 回 お茶とお花と本のかほりのご案内

幹 事 報 告

配布物：週報No. 37

回覧物：地区ローターアクト「ニュースレターNo. 6」・ハイライトよねやま 193号

報 告：4月29日・5月6日は休会日です。

5月10日 18時30分 高田ターミナルホテル 新役員・理事会

5月19日 18時30分 やすね

新旧理事引継ぎ会

熊本地震災害義捐金 協力をお願い

(例会中に44,000円 集まりました)

5月例会プログラム

回	日	講演者：演題	会 場
-	5月6日	特定休会日	-
41	5月13日	クラブフォーラム (地区研修・協議会報告)	デュオ・セレッソ
42	5月20日	高田ローターアクトクラブ 会長 瀬川 由樹子君 「演題 未定」	デュオ・セレッソ
43	5月27日	有限会社京美容室 代表取締役 関原 英里子様 「演題 未定」	デュオ・セレッソ

卓 話 雪利用の今！！



公益財団法人 雪だるま財団 スノーチーフマン 伊藤 親臣 様

今日は、「雪利用の今！！」と題して、雪の活用方法や雪国各地で展開されている雪利用についてお話したいと思います。その前に、まず、今年も過去に例を見ないほどの暖冬小雪でしたね。私は上京するたびに東京駅のホーム階と改札階を結ぶエスカレーター脇にズラズラッと貼ってある「JR SKISKI」キャンペーンのポスターを見るたびに、ガックリしていました。そのポスターには「そこに雪はあるか？」と書かれているのです。私はそれを見かける都度、心の中で「無いよ！」と何度かつぶやきました。たかがポスターに、これほど恨めしく思ったことはありませんでした。

というのも、豪雪地である安塚には、例年の1/3～1/4の降雪量だったからです。雪国では「雪が少ない」ということは「経済活動が鈍感になる」を意味するからです。もちろん身近な話では暖房に使用する灯油の量が少なくなり、「経済的な負担も減り暮らしやすい」と感じる場面もありますが、除雪業など雪に関係する人にとっては大事です。除雪車の出動が少ないので燃料の購入量も少ない。一方で、万一の大雪の備え、いつでも出動できるように作業員を待機させたり、除雪機械のメンテナンスもしなくては行けない。小売業では防寒具や雪処理の道具も買い控える消費者も多く、雪国の経済に大きな影響を与えた冬であったと感じました。それでも1月中旬に、少しまとまった雪が降り、除雪業者、スキー場関係者はホッとしたでしょう。しかし、安塚の80代の老人は「こんなに雪が少ない年はなかった」と私に話してくれました。老人は「雪不足は水不足

につながる。越冬する害虫もいるからなあ」と心配そうに雨交じりの空を見つめていました。私は雪の降らない名古屋で生まれ育ったせいもあり、小雪が地域経済に与える影響を気に掛ける事はありませんでしたが、「雪は降る場所に、それなりの雪が降らなければならない」と改めて実感しました。

ところで、私が所属する雪だるま財団では、平成2年の設立以来25年、雪を利活用するお手伝いで地域活性化に役立てようと、様々な事業に取り組んできました。最近特に、雪の冷たさを利用した低温貯蔵技術の開発に力を入れています。具体的には野菜やコメなどの農産物を冷やすだけでなく、食肉や果実、酒やワインなどのアルコール飲料、そしてコーヒーやお茶などの嗜好品の低温貯蔵など、雪を利用して安定した低温と高湿度の貯蔵環境を応用して、食品の高付加価値化を目指しています。こうした雪を活用し地域の特産品をブランド化して地域おこしに取り組んでいる事例が、北は北海道から南は広島県まで広がりを見せています。

雪が降る地域だから「雪国」という存在感が際立つのであって、雪が降らなければ「雪国に非ず」です。

せっかくタダで毎年降る雪を、じっと我慢していても、積極的に利用しても、春になれば雪は必ず解けるのです。今年の冬に向けて、雪利用を考えてみませんか？